

2008年11月25日
宮崎電線工業株式会社

フリーズ状態から自動復帰可能な屋外型BSデジアナヘッドエンドを開発 ～BSアナログ放送終了後も現在のBS-AM伝送をローコストで継続できる～

宮崎電線工業(株) (川崎市川崎区、取締役社長 大橋省吾) は、BSデジタル放送を既存のテレビ共同受信施設に簡易に導入するための「フリーズ自動復帰機能付きBSデジアナヘッドエンド」を開発しました。

BSアナログ放送(NHK衛星第一、第二テレビ:BS1,BS2)は、2011年7月に地上波アナログ放送と同様に終了予定となっておりますが、このBSアナログ放送をVHF帯域(90～222MHz)やUHF帯域(470～770MHz)などの空きチャンネルに伝送するBSアナログヘッドエンドを用いた施設は、小規模テレビ受信施設やホテル・旅館の館内システムなど多くの場所で使われています。

このような設備のデジタル化への対策として、設備全体およびテレビをデジタル対応化する方法がありますが、ホテルなどの小規模施設等では費用の面で高いハードルとなることになります。

今回開発した「**BSデジアナヘッドエンド(BSDH-100)**」は、現状の設備を活かしつつ現在使用中のBSアナログヘッドエンドと交換することで、BSアナログ放送終了後もそのままアナログテレビで継続してBSデジタル放送を受信することができるようになります。

今回開発したBSデジアナヘッドエンドの主な特長は、

- ①**BSデジタル放送2チャンネル分を振幅変調(AM)**し、指定のチャンネル(VHF・UHF帯域)に伝送。
⇒従来のアナログテレビで受信可能。
- ②**独自のフリーズ復帰回路**を採用しており、チューナが外気温・雷など自然の外部要因によりフリーズしても、一定時間後に自動復帰。
(特許出願中)
⇒トラブル時の保守メンテナンス要員の出向を低減。
- ③このBSデジアナヘッドエンドを使うことで、**BS-IF帯域(1032～1335MHz)に対応していない共同受信施設でも伝送路をそのまま利用**可能。
⇒BSアナログから**BSデジタルへの移行がローコストで実現**。
- ④防滴構造により屋外設置対応可能
⇒アンテナ柱に取付けられるなど設置場所を選ばない。

となり、小規模な施設に対して設備改造が少なくローコストでBSデジタルへ移行できるようになります。

宮崎電線工業(株)では、今後さらに実証試験を行い2009年7月より年間千施設以上への販売を予定しています。

この製品は11月28日(金)～30日(日)に大阪市のアジア太平洋トレードセンターで開催される「ケーブルテレビショー in KANSAI 2008」に展示します。

本器（BSDH-100）の主な諸元

項目	単位	規格
受信チャンネル	ch	BSデジタル放送、任意の指定 最大2波
出力チャンネル	ch	VHF、UHF、MIDの指定（固定） 最大2波
出力信号形式		NTSC-AM（VSB）
入出力コネクタ		F型（75Ω）
消費電力	[W]	38（BSアンテナへの電源供給含む）
電源	[V]	AC100（50/60Hz）
外形寸法(高さ×幅×奥行)	[mm]	455×304×264（突起物含まず）
質量	[kg]	1.8



本件に関するお問い合わせ先:

【広報関係】 昭和電線ホールディングス株式会社

人事総務統括部 広報課

[担当 菅井]

TEL:03-5532-1911

【製品関係】 宮崎電線工業株式会社

電子機器事業部 技術部

[担当 山根]

TEL:044-344-1123

以上